



ニッポンの
ドクター和の

臨終図巻



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る総合診療」を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

2018年の厚生労働省の調査によれば、誤嚥性肺炎で亡くなられた人は年間約4万人。30年には、男性7万人、女性5万人が、この死因で亡くなると予想されています。老化に伴い、人は飲み込む力(嚥下機能)が低下します。唾液や食べ物を誤嚥することは、若い人でもよくあることですが、年を取ると咳

で吐き出すことができなくなっていくのです。これを咳反射といいますが、咳反射が弱まってくると、口腔内の雑菌を含む唾液が気管に垂れ込み肺に入り、肺炎を発症しやすくなるのです。脳卒中の既往がある人やパーキンソン病や認知症の人はリスクがより高まります。発熱、咳、汚い痰などが主な症状ですが、高齢になるほどこうした症状が現れにくくなる傾向があります。

は、胃ろうを勧められることもあるでしょう。しかし、御本人の「食べたい」気持ちを無視するのは、人間の尊厳を奪うことになりません。咀嚼(そしゃく)運動をしなくなると、認知機能の低下も早まります。ですから、「人間は誤嚥する動物。どんなに気を付けていても、誤嚥性肺炎になるときはなる。だから、あまり怖がらないで美味しく食べてね」と、在宅患者さんのご家族にはいつもそうお話をしています。

訃報を聞き、往診の車中この人の曲ばかりをかけています。いしだあゆみさんの〈ブルーライトヨコハマ〉、近藤真彦さんの〈ギンギラギンにさりげなく〉、ジュディ・オングさんの〈魅せられて〉…素晴らしい曲が多すぎて「この曲も、あの曲もそうだったのか!」と改めて驚いています。

作った曲は約3000曲。総売り上げ枚数は7560万枚で日本の作曲家歴代1位。誰も破ることが出来ない数々の記録を作った歌謡界のレジェンド、筒美京平さんが10月7日に都内の自宅にて死去されました。享年80。死因は誤嚥性肺炎との発表です。超高齢社会の今、誤嚥性肺炎で死ぬことは、珍しいことではなくなりました。

177 作曲家 筒美京平



在宅療養をしている方は、普段より食欲が落ちて元気がない、ぼんやりして様子が何かおかしいと感じた場合は、まずはかかりつけ医に相談をしてください。

しかし誤嚥性肺炎を怖がるあまり、また食べられる力が残っているのに、ドロドロのミキサー食に切り替えてしまうことが施設や病院ではよくあります。場合によって

コロナ禍の影響で、今年には在宅患者さんを招いてのクリスマス会もできない年末となりそうです。僕はひとり、往診車の中で「また逢う日まで」を歌って過ごします。

「また逢う日まで」歌って追悼